



大野市教育委員会たより

令和元年11月25日発行 第38号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月14日（木）午後7時～9時 場所：上庄小学校体育館
対象者：上庄地区住民（出席者数25人）
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎再編計画の見直しを行っているが、その計画はないという考えでいいのか。
⇒■現再編計画の見直しをしているが、すべてを白紙に戻した訳ではない。なんらかの形で再編は必要であるという考えは変えていない。学校の校数、再編時期、再編方法の3点を基本に見直しを進めていきたい。皆さんの意見をお聞きして、見直し案をしっかりと作っていきたい。
- ◎上庄小は地域に残して欲しい。限界集落になる。中学校の再編は仕方がないと思っている。陽明中と開成中を残す2校案が良い。
⇒■意見交換では中学校と小学校は使命が違うのではないかと意見される方もいるため、考慮しながら十分考えていきたい。
- ◎小学校を2校にするという計画だが、どこに建つのか。
⇒■現再編計画においても建てる場所は決まっていなかった。現在も建てる場所の案はない。
⇒◎平成38年に小学校を2校に再編することを目標にしているが、計画がまとまらなかつたらどうするのか。
⇒■この再編計画は一度は決定したが、内容を見直す取り組みを現在行っている。
⇒◎仮に、10年後に小学校を再編し、スクールバスで運行するとしても、子どもを迎えにいかないといけない場合がある。自分たちの年齢を考えると孫を迎えに行くことが出来なくなると思う。出来れば、上庄小と上庄中は今の場所にあった方が良い。
⇒■保護者の心配は通学の距離と時間、バスの運行方法などである。慎重に検討していかなければならないと思っている。
- ◎学校を再編することで、子どもの将来が確約されるという主張が先生から出てこない。再編は、市の財政を考え、経費が掛かるからという理由が柱になっていると思う。どこの地域の学校も1クラス5人ぐらいになったら、他の学校との再編を考えるのが自然であると思う。子ども中心に学校再編を考えないといけない。教育にはお金を掛けないといけない。上庄小が地域からなくなると、子どもの姿が見えなくなるので寂しい。子どもの姿が地域で見れることは癒しである。
⇒■子どもがいかに学校で健全に真っ直ぐ育っていくかであると思う。最初から再編ありきや子どもの数合わせではなく、何を目指して大野は再編を進めていくのかであると思う。子どもみんなを良い子に育ててやりたい。
⇒■再編は経費のことでなく、一番は子どもの姿である。これからの時代に立ち向かっていく力を小学校から培っていく必要があると思っている。今の教育は、子どもたちが自分たちで話し合っ進めていく内容になっている。そのため、あまりにもクラスの人数が少ないと話し合いが成り立たなくなる。今年は意見交換会以外に、小学校6年生と中学校2年生全員からアンケートを取って意見を聞いている。他にも教職員からもアンケートなどで意見を聞いている。
⇒◎福井県は学力が優秀である。今の教育は間違っていない。この結果を継続しながら、再編が出来たら良い。

⇒■学力をつけていくことも必要だが、いじめや差別が出ない学校にしていきたい。

◎上庄小と上庄中の現在の人数は何人か。

⇒■上庄小は全校児童121人で、5年生は25人、6年生は24人で、一番少ないクラスは16人である。上庄中は全校生徒86人で、1年生24人、2年生26人、3年生36人である。

⇒◎上庄小の将来の児童数の予想はされているか。

⇒■上庄地区の人口は、10年前は4,100人だったが、現在は約3,500人、2040年には約2,400人になると予想されている。これを基に、20年後は上庄小は121人から約80人に、上庄中は86人から約60人になると考えられる。

◎上庄中の学校を利用して、小中一貫校にして欲しい。子どもが夏祭りで活躍してくれているので、再編で市街の学校へ通うようになった子どもが地区の行事に参加してくれるか不安である。再編で上庄小や上庄中が空き校舎になった場合、校舎はどうするのか。

⇒■校舎を教育と違う用途にする場合、国の承認が必要となる。旧六呂師小は民間に貸しており、旧森目小は民間の福祉団体に売却している。

◎子どもにとって近くに学校があるのが一番である。でも、子どもが1人や2人になったら学校は成り立たないと思う。子どもが少人数になれば、先生も子ども1人1人を把握できると思うし、子どもも勉強がよく理解出来ると思う。しかし、ある程度、人数がいないと成り立たない教科もある。そういう教科は、複数の学校で学年ごとに集めて教えるとかが出来ないか。クラブ活動も1つの学校でやるのではなく、複数校で1つのチームを作って行うことは出来ないのか。

⇒■小規模校の良い所は、丁寧に教えることが出来たり、子どもの発表の機会が増えたりすることである。しかし、ドッジボールや合唱などは人数の多い方が良い。現在、小規模校同士でテレビ会議を通して学習したり、和泉小と上庄小の子ども同士が交流学習をしたりして、小規模校の子どもたちがいろいろな環境の中での学習を体験している。このように、一定部分において合同で教育を行っているが、すべての部分で合同で行う場合は再編の形になってしまうと考える。その他、複数校で交流している連合行事には、連合体育大会や連合音楽会があり、お互いがふれあっている。他にも小学校体育振興連盟で水泳教室を開催したり、6年生全員による球技交歓会を行ったりして、小規模校が不足する部分を補っている。

⇒◎全国的に少子化になっているので、今までの教育を見直して、連合で教育する部分、小規模校が単独で教育を行う部分が出来れば良いと思う。20年先には、ひょっとしたら大野と勝山で小学校1校という発想が出てくるかもしれない。少人数で出来る教育、団体の場合は合同で行う教育を行うなど、発想を変えて教育の仕方を変えることが出来ないかと思う。

⇒■子どもの数だけでいくと、奥越で小学校1校、中学校1校という考え方になると思うが、この形は教育の目指すものではない。小規模校、大規模校、それぞれに良い所、悪い所がある。バランスが大事であると思う。

◎小学校が地区にあると地域の絆が深まる。年配者はこの絆を大事にしたいと思うから、再編に反対となる。上庄地区には小学校を残して欲しい。子どもがどれくらいの人数になると複式学級になるのか。

⇒■2つの学年合わせて16人以下（1年生を含む場合8人以下）で複式学級になる。

⇒◎複式学級では、45分の授業で教えてもらえるのは、普通学級の半分になるのか。

⇒■複式学級の授業の進め方は、例えば1・2年生では45分の授業で、最初、下の学年から授業に入り、5分ごとまたは10分ごとに教職員が動きながら、1年生と2年生を交互に教えている。教職員がついていない間の児童は、教職員が児童から離れる前に指示を出して学習をさせている。教職員も非常に忙しい感じで各教科を教えている。

⇒◎上庄小を残しておいて欲しいといっても、人数が少なくなれば複式は避けられないということか。

⇒■そうである。

⇒◎人数が少なくなると、きめの細かい授業を受けられないということか。

⇒■人数が少なくても、今年の3学期から導入するタブレットなどで学習をすることができる。その他、人間関係を養うために、学校同士の交流を行っている。

⇒◎その交流を今まで以上に検討し、活用しないと、再編しか方策がない状況になる。

⇒◎学校間の交流でアイデアがある。例えば、大野市の全小学校5年生をシャッフルして、結の故郷小学校5年

1組という想定したクラスを作り、その構成は、上庄小2人、有終南小5人、有終東小5人などとする。その子どもたちは、地元の学校に通いながら、1年間随時、想定のクラスで授業をして、触れ合ったりするのはどうかと思う。

⇒■学級数で教職員が配置されるため、その方法を取ると新しい学校としての位置付けになり、教職員も足りなく1年間行うことが難しいと考える。学校同士の交流については、内容やあり方を考えていかなければと思う。再編に関する教育のビジョンについては、しっかり考えていきたい。

◎どの地区でも、学校を残して欲しいという意見があるのではないかと思うが、そういう要望を教育委員会は汲むのか。

⇒■そのような要望をお聞きするために、意見交換会を行っている。

⇒◎聞いただけでは、以前の再編計画と同じになる。なんらかの形で聞いていただかないと、意見交換会を開いている意味がない。

⇒■小中学校の保護者や保育所、こども園の保護者など、皆さんの意見は様々であり、1つにまとまることはないと考えている。意見は再編計画の見直しの参考としていきたい。



◎来年度に計画案を立てるということだが、案を立てる決定機関はどこか。立てた案をいつ発表してくれるのか。発表した計画を地域で説明してくれるのか。

⇒■具体的に、どのような組織で検討し、いつ発表するかは決まっていないため申し上げられないが、計画案をなんらかの形で説明に回すことはしていきたいと思っている。

⇒◎検討する組織のメンバーがしっかり発表されて、みんなが納得するメンバーであれば良いが、再編計画のように誰が決めたのかも分からない、どのような経緯で議論が進められたのかも分からないようだったら、透明性がないため、誰も納得いかないと思う。

⇒■情報公開はよく考えていきたい。

◎保育園や小中学校それぞれの過程で、どういったことをメインに教えていくべきであるかという指針はあるのか。成長の時期によって、教えるべきことがあると思う。

⇒■小学校と中学校ではミッションが違っていると考える。子育てでは、赤ちゃんの頃は「しっかり抱いて肌を離さず」、小学校に上がる頃には「肌を離して手を離さず」、中学校・高校では「手を離して目を離さず」、大学や就職時には「目を離して心を離さず」といい、学校教育にも当てはまるとしている。

⇒■昔は学校だけによる教育だったが、今は家庭や地域と連絡した教育が重要となっている。幼児期は家庭との結びつき、小学校になると地域と一緒に、中学校では地域に参画するという部分に焦点を当てながら教育に取り組んでいる。

◎体罰について、どのような見解を持っているか。「修学旅行で早く寝なさい」と注意して、寝なかったから先生が子どもを叩いたのは体罰になるのか。他にも明らかに生徒に問題があると思われることに、先生が体罰と思われるので何もしなくなったと感じている。これは保護者にも原因があると思っている。我が子を先生に育てて欲しいとは思わない。育てるのは親だと思ふ。学校はみんなという時に、基本的なことを学ぶためのものだと思う。

スポーツとゲーム・インターネットはどっちが良いか、悪いかの差はあるか。スポーツで活躍できる子は一握りだと思う。AIやグローバル化の時代を迎え、ゲームやインターネットを使いこなせることで、自分たちでも知らない情報を子どもはたくさん仕入れている。その大事さを最近感じている。学校では、ゲームやインターネットをする時間が制限されている。教育では、スポーツが出来ることが優れていると考えられているのか。

⇒■体罰は法律的に禁止されている。大切なのは、信頼関係だと思う。家庭でも、子どもを叩いたら虐待と言われてしまう時代である。教職員は、夏休みなどを除けば、保護者より子どもと一緒にいる時間が長い。そのような中で信頼関係がしっかり築かれていれば、体罰はなくなると考えている。

AIの時代を迎え、学校でもタブレットを導入した学習が始まるが、それだけでは子どもの力はいかない。黒板などのアナログとデジタルをうまく使い分けて、子どもに考えさせないといけない。大野市が目指しているのは、確かな学力を育むことであるが、それ以外に、自分の好きなことを徹底的にやれる環境づくりも

目指している。絵が好きな子は絵を、ものづくりが好きな子はものづくりなど、自分が得意とすることを十分やることで身につけていくと考えている。個性を大事していくことも目指している。

⇒■県では小中学生に対して、インターネットの利用は2時間にしようなどのルールを決めているが、実際は自己責任になる。

◎上庄と和泉だけが、小学校からそのまま中学校にあがるので、小中一貫校として上庄を残して欲しい。

⇒■和泉は小中併設校という位置付けである。校長は1人で、教頭は小学校1人、中学校1人の配置となっている。

⇒■現在、上庄中の3年生は2クラスあるが、今後は小学校から中学校まですべて1クラスになる。そうなると9年間、ずっと同じクラスになる。良い所もあれば、心配な所もある。

⇒◎だから、学校間の合同の場を増やしていかないといけない。スポーツだけでなく、勉強でも、様々な学校での組合せによる交流学习を行い、友だちを増やし、人間関係を増やしていかないといけない。9年間ずっと同じクラスという固定観念をはずして、もっと柔らかい頭で、合同でやることや単独でやることを、子どものために考えて欲しい。

⇒■緩やかな連携を考えていきたい。

⇒◎大野市独自の再編を考えていかないといけない。

⇒■どの形が子どものために良いかを考えていきたい。

◎教職員の意見交換会があったと思うが、全体的に再編をしていかないといけないという意見が多かったのか。

⇒■教職員は自分たちの学校に誇りを持ちながら意見を言っていた。上庄地区のような、幼・保・小・中でずっとメンバーが一緒の方が良いという考えの教職員もいたが、意見にはバラつきがあった。校長会でもう一度、各学校に独自のアンケートを取り、その回答を基に、教育委員会と校長会で意見交換会を行う予定としている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

